

# キリスト者と呼ばれた人々

使徒言行録 11 : 19~26

2019. 4. 28

熊取教会

5 <sup>19</sup> ステファノの事件をきっかけにして起こった迫害のために散らされた人々は、フェニキア、キプロス、アンティオキアまで行ったが、ユダヤ人以外のだれにも御言葉を語らなかつた。<sup>20</sup> しかし、彼らの中にキプロス島やキレネから来た者がいて、アンティオキアへ行き、ギリシア語を話す人々にも語りかけ、主イエスについて福音を告げ知らせた。<sup>21</sup> 主がこの人々を助けられたので、信じて主に立ち帰った者の数は多かつた。<sup>22</sup> このうわさがエルサレムにある教会にも聞こえてきたので、教会はバルナバをアンティオキアへ行くように派遣した。<sup>23</sup> バルナバはそこに到着すると、神の恵みが与えられた有様を見て喜び、そして、固い決意をもって主から離れることのないようにと、皆に勧めた。<sup>24</sup> バルナバは立派な人物で、聖霊と信仰とに満ちていたからである。こうして、  
10 多くの人が主へと導かれた。<sup>25</sup> それから、バルナバはサウロを捜しにタルソスへ行き、<sup>26</sup> 見つけ出してアンティオキアに連れ帰った。二人は、丸一年の間その教会と一緒にいて多くの人を教えた。このアンティオキアで、弟子たちが初めてキリスト者と呼ばれるようになったのである。

## 15 【はじめに】

イエスキリストを信じる者たちが、「キリスト者」と呼ばれるようになった。と今日の聖書に記されています。「キリスト者」とはキリストのもの、という意味です。私達はキリスト者として生き、キリスト者として死んで行く。そうありたいと思います。「生きるにも、死ぬにも、あなたのただひとつの慰めはなんですか」「それは、体も魂も、生きるにも、死ぬにも、わたしが、私の真実の救い主イエス・キリストものであることです。」と、ハイデルベルク信仰問答にあります。私  
20 がキリストのものであること。これはまことに深い慰めであり希望です。

## 【使徒言行録】

わたしたちは、昨年五月から礼拝で使徒言行録を読み進めています。まもなく一年。今日は 11  
25 章。使徒言行録の三分の一ほどが終わりました。使徒言行録の始まりは、イエス様がオリーブ山から天に帰って行かれる物語。このときイエス様は使徒たちにこうお告げに成りました。

<sup>1:8</sup> あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」

エルサレムから始まって、ユダヤとサマリアの全土で、沢山の人がイエス様を救い主であるとして洗礼を受けました。そのことを、これまで、学んでまいりました。  
30

それから「地の果て」それは、言行録の最後のシーンが暗示しています。

使徒言行録 28 章の最後は囚人パウロです。彼はローマで裁判を待っています。使徒言行録 28:30 パウロは、  
35 自費で借りた家に丸二年間住んで、訪問する者はだれかれとなく歓迎し、<sup>28:31</sup> 全く自由に何の妨げもなく、神の国を宣べ伝え、主イエス・キリストについて教え続けた。これが使徒言行録の終わりです。静かな終わりです。しかし、ローマは彼の中継地にすぎません。最終目的地はイスパニアだとパウロはロマ書 8 章に書いています。イスパニアはユーラシア大陸の西の果て、地の果てです。

エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また地の果てにいたるまで、イエス様の証人となること。これが、使徒言行録の物語です。その世界伝道の拠点となったのが、アンティオキアです。その説明が今日の聖書に記されています。19 節。

### 【ステファノ事件】

19 ステファノの事件をきっかけにして起こった迫害のために散らされた人々は、フェニキア、キプロス、アンティオキアまで行ったが、ユダヤ人以外のだれにも御言葉を語らなかった。

5 ステファノの事件というのは、教会の七人の執事の一人として選ばれたステファノが、裁判に架けられ、石打の刑とされて、即、石で打ち殺されたできごとです。彼は法廷で、理路整然と堂々と、ナザレの人イエスこそ救い主であると演説しました。人々は激怒し、彼を即決で死刑と決め、町の外に引きずり出して石で打ち殺しました。その日、エルサレムの教会に大迫害が始まりました。それはローマ人による迫害ではなく、同胞であるユダヤ人たちからの迫害でした。使徒たちだけがエルサレムに残り、弟子達は皆迫害を避けて、ユダヤとサマリアの全土に落ち延びて行きました。しかし、その落ち延びて行った先々で、「イエスこそ救い主である」と人々に語り、聞いていた人々はそれを受け入れて、多くのユダヤ人たちが洗礼を受けたと、記されてありました。更に、ユダヤ人たちはばかりでなく、エチオピアの高官や、ローマ軍の百人隊長の一家も洗礼を受けました。ユダヤ人から、サマリア人へ、さらに異邦人へと、イエス様の出来事が告げられ、弟子達が増えて行きました。

15 一方、きょうの19節には、ステファノ事件を受けて別の方面に逃げて行った人々がいたことが、記されています。フェニキア、キプロス、アンティオキアまで行った、とあります。

彼らは、ユダヤ人以外には伝道しませんでした。イエス様の教えは、律法の教えの上に立っています。ユダヤ教を全く知らない人々に伝道することは、容易なことではありません。

20 20 しかし、彼らの中にキプロス島やキレネから来た者がいて、アンティオキアへ行き、ギリシア語を話す人々にも語りかけ、主イエスについて福音を告げ知らせた。

### 【アンティオキア、フェニキア、キプロス、キレネ、タルソス】

地名がたくさん出てきました。いつものように地図で確認したいとおもいます。聖書の後ろにある、聖書地図8を見て下さい。トルコ半島の付け根にアンティオキアがあります。今日の記事は、この、アンティオキアの教会についてのものです。

アンティオキアから海岸線にそって、少し南に下るとフェニキアがあります。

キプロス島。アンティオキアの沖合にある島。

30 キレネ。キレネは地図に出ていません。アフリカにあります。地図でアフリカ海岸を西に辿り、図がほぼ切れるあたりの、少し内陸部。 まえ、イエス様の十字架を背負ったキレネ人シモンの出身地として紹介したことがあります。

次に、パウロの故郷タルソスです。図7、パウロの宣教旅行1 です。点線で示されたのが、パウロの最初の伝道旅行の足跡です。旅はアンティオキアから始まりアンティオキアで終わります。タルソスはアンティオキアの北西150kmほどのところ。

35 地図から戻ってください。

### 【アンティオキアでの伝道】

エルサレムから、キプロス、フェニキア、アンティオキアに逃げてきた人々は、最初、ユダヤ人にしか、イエス様のことを伝えなかったようですが、その内、キプロス出身やキレネ出身の者たちが、ギリシャ語を話す人々に福音を伝えました。異邦人にイエス・キリストの十字架と復活を伝え

たということです。大胆です。福音を伝えた者たちの名前は残っていません。しかしこれが後に大きな結果を生みます。

21節。 21 主がこの人々を助けられたので、信じて主に立ち帰った者の数は多かった。 異邦人にも、主の救いは理解され、主に立ち返り、大勢の者達が救われました。主が、名も残されていない、小さいものたちの伝道を助けて、大きな御業にしてくださいました。神は彼らの働きを通して、全人類の救いという大きな御業を、具体的な形にお始めに成りました。アンティオキアの教会が、後にパウロを世界伝道へと送り出し、パウロを支えました。アンティオキア教会の働きを、神が何倍にもしてお用いになりました。私達も小さい群れではありますが、神が支えて下さいますから、元気を出して、あきらめず、御名を宣べ伝えたいとおもいます。

### 【アンティオキア】

ここで、アンティオキアについて少し説明します。アンティオキアの場所は、先ほどの地図で確認しました。現代の地名は「アンタキヤ」トルコ領です。町の西側を北から南に河が流れています。川に沿って南に下ると、川は曲がりながら流れて15 kmほどで、地中海に流れ込む。町の西の川の向こうには山地があって、その山地をこえると地中海。一方町の東には高い山があった。これらのことから、アンティオキアは守りやすい地形だったようです。アンティオキアは、当時、ローマ帝国第三の町でした。ローマ、アレキサンドリアにつぐ、帝国第三の町。

その、国際的大都市のアンティオキアの教会で「異邦人たちが沢山、洗礼を受けているようだ。」22 このうわさがエルサレムにある教会にも聞こえてきたので、教会はバルナバをアンティオキアへ行くように派遣した。

### 【バルナバ】

ユダヤ人たちの迫害によって、エルサレムの教会から人々が逃れ、逃れた先で新たに教会が生まれました。その教会を監督するため、エルサレム教会はパレスチナにはペトロを、アンティオキアへはバルナバを派遣しました。バルナバはこれまで何度も出て来ました。教会が始まったばかりのとき、人々は共同生活をしました。そのとき、キプロス生まれのバルナバが、持っていた畑を売って、代金を使徒たちの足元に置いた、と記されています。また、サウロが洗礼を受けて、エルサレムに帰ったとき、弟子達は皆彼を畏れました。ところがバルナバだけは彼を受け入れました。そして昔の仲間を命を狙われていたサウロを、カイサリアまで送り届け、そこからタルソスへ出発させた、とあります。船にのせて送り出したのでありましょう。そのバルナバ。信仰深く、優しく勇気ある。徳を備えた人物。そのバルナバが、特使としてエルサレムからアンティオキアに派遣されてきました。

23 バルナバはそこに到着すると、神の恵みが与えられた有様を見て喜び、そして、固い決意をもって主から離れることのないようにと、皆に勧めた。 24 バルナバは立派な人物で、聖霊と信仰とに満ちていたからである。こうして、多くの人々が主へと導かれた。

バルナバは、彼らの信仰をみて、その様子を見て、喜んだ。おそらく、多くの者たちは、割礼をうけることもなく、イエス様を受け入れて、洗礼を受けていたであろうと思います。その彼らを見て、バルナバが喜んだ。それは彼らが、互いに互いを大切に、祈りあい、いたわりあい、励ましあって、イエス様のみ言葉を守っているのを見たからでありましょう。彼は、信仰の一番大切なところを見ていました。後から下ってきた人々のように、割礼を受けなければ救われない、などと、

余計な要求をすることはありませんでした。イエス様の十字架と復活をうけいれ、永遠の命を信じる。この神の深い恵みを、感謝して受け取る。神を愛し、互いに大切にしよう。そのことだけが大切です。

5 **【サウロを呼ぶ】**

バルナバは、アンティオキアの教会の人々を導く教師として、サウロを思い出しました。彼は故郷タルソスにいました。<sup>25</sup> それから、バルナバはサウロを捜しにタルソスへ行き、<sup>26</sup> 見つけ出してアンティオキアに連れ帰った。二人は、丸一年の間その教会と一緒にいて多くの人を教えた。

10 バルナバがサウロを故郷へと送り返して9年になります。その9年、彼が何をしていたのかは、わかりません。アブラハムの歩みが公に始まるのは、彼が75歳の時。モーセが公の歩みを始めるのは、60歳。公の任務につくまでの人知れず過ごす日々。それは往々にして誰にもあることです。

**【キリスト者】**

このアンティオキアで、弟子たちが初めてキリスト者と呼ばれるようになったのである。

15 この、ローマ帝国第三の国際都市アンティオキアは、シルクロードの出発点でした。メソポタミアと地中海地域を結ぶ、シリアの交通の要衝だったため、商業が栄えました。妖精ダフネの神殿が月桂樹の林の中にあり神殿娼婦たちがいました。繁栄し、驕慢で墮落した異教的都市アンティオキア。しかし、そこにも、イエスキリストを信じる人々が生まれました。そこに集まっていたイエスを信じる者たち。

20 町の人々は彼らをどう呼ぶべきか迷ったようです。他の町では、キリストを信じるものたちは皆、ユダヤ人ばかりで、しかもユダヤ教の会堂で礼拝していましたから、今まで通り「ユダヤ人」と呼べば済む。新しい呼び名はいりません。けれども、アンティオキアでは、ユダヤの教えを守っているように見えるのに、どうもユダヤ人ではない人々がいる。ギリシャ人もいればローマ人もいる。いろいろな人々が一緒に一つの場所で礼拝している。あの人々を何と呼べばよいのか。あの宗教の  
25 神はイエス・キリストと言うらしい。そこで、人々は彼らをギリシャ語で「クリスチャノス」と呼ぶようになった。ヘロデ家の者がヘロディアノスと呼ばれた。そのように、キリスト家の者、キリストの者、というような意味です。それは、イエス・キリストへの信仰が、ユダヤ人だけのものから、人類全体のものになったと事の必然的結果でした。

30 **【アンティオキア教会】**

アンティオキアの教会で、教会の者たちが初めて「キリスト者」と呼ばれるようになった。この呼び名には、最初はある種の揶揄いや軽蔑が込められていたであらうでしょう。しかし、信じる者にとって、これは尊い呼び名です。アンティオキア教会はやがてエルサレムやローマの教会と並びたつようになり、後には、エジプトのアレキサンドリアと並び立つ神学の拠点となりました。教会の  
35 歴史の中で無視することのできない、重要な古代教会です。

**【キリストの家の者】**

クリスチャノスとは、「キリストのもの」を意味します。私達は生きる時も死ぬときもイエスキリストのものです。だから、私達は慰めと、希望を頂く。なぜなら、キリストは今も神の御許で、  
40 私達のためにとりなしをして下さっておられるからです。キリストは死を通り抜け、永遠の命の中

に居られます。キリストの家の者はキリストが設けた道に従ってこの世を走り抜け、キリストの下に共に集う。2000年前、古代都市アンティオキアで、キリスト者と呼ばれた人々があったように、私達も今、この泉南の地で、キリスト者として、生きる時も死ぬ時もキリストのものでありたいと思います。